

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.5 1

開催地：八代市

平成 19 年 11 月 18 日（日）、やつしろハーモニーホールにおいて、熊本県民の方を対象に「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

県内	21 名
県外	1 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤った写真の説明など、虚偽の説明をしてきた地区に対して具体的に訂正すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の洪水時において八代市内の左岸側に洪水が氾濫している状況をお示しするために用いた写真について、写真に写っている場所（渡町；現在の球磨川河川敷スポーツ公園付近）と説明に使った地名（豊原）が一致していませんでした。報告会で戴いたご指摘を踏まえ、後の報告会では説明を改めさせていただいたところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本高水流量は過大では無いという説明はあったが、どのように基本高水流量が決定されたという説明はなかった。（対象洪水から）昭和 40 年洪水がはずされたことや（計画降雨継続時間が）12 時間雨量に変わり、降雨の引き伸ばしパターンが大きく変わったことなど、工事実施基本計画と決定方法が変わったのに基本高水流量が 7,000m<sup>3</sup>/s と同じになっていることについて、十分に住民に説明して欲しい。そもそも引き伸ばしとは何なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本高水のピーク流量は、80 年に 1 回の確率で発生する降雨（人吉地点の場合）を想定し、流域の地形及び土地利用等の流出形態を踏まえ、全国の河川で一般的に用いられている手法のひとつである貯留関数法という流出計算手法で算出しています。 人吉地点の基本高水のピーク流量の算出にあたっては、過去の主要洪水の降雨を 80 年に 1 回の確率規模となるよう引き伸ばす一般的な方法で検討しています。 昭和 40 年の降雨については、12 時間雨量を計画雨量に引き伸ばした場合、短時間雨量が非常に大きい確率規模となったため、これを採用しないこととしたところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（八代市内で開催された報告会で提示していた）ピンク色に着色された図（八代市の浸水想定区域図）について、何年に 1 回の洪水を想定しているのか、何千 m<sup>3</sup>/s 流れたら浸かるのか聞きたい。また、麦島地区はピンク色ではなかったと思うが、そこは浸からないから安全ということか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 16 年に作成した浸水想定区域図の浸水範囲をお示したものです。 この浸水想定範囲は、従来計画（工事実施基本計画）による 80 年に 1 回の確率で発生する降雨（萩原地点上流域平均雨量）を想定したものです。 今回、河川整備基本方針が定められたことから、新しい想定氾濫区域図の検討を進めているところです。麦島地区の浸水想定区域図についても、今後検討していきたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知事は基本方針に了承しがたいと言っている。報告会に県職員は出さないと言っているが、この場にいる県職員は誰の指示で来ているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会は、知事からのご要望を踏まえつつ、国土交通省が自らの責任において基本方針の内容等を地域の方々にご報告するために開催しているものです。 なお、球磨川流域では、市房ダムの操作への疑問の声が強いことから、報告会の中で市房ダムの操作に関してご質問があつ</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・(以前の報告会で質問した)過去の洪水での豊原地区の浸水戸数を教えて欲しい。</li> </ul>	<p>た場合には、熊本県の方から説明いただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村が取りまとめた過去の洪水被害記録は、詳細な分類がされていないため、豊原地区の浸水戸数までは分かっていません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料のP24にS40年7月型洪水、S47年6月型洪水については、規模が非現実的であるため採用していないと書いてあるが、S40年7月洪水が引き金となって川辺川ダムが発表されたのではないか。採用しない方が非現実的なのではないか。計算方法に疑問を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉地点の基本高水のピーク流量の算出にあたっては、過去の主要洪水の降雨を80年に1回の確率規模となるよう引き伸ばす一般的な方法で検討しています。</li> </ul> <p>昭和40年の降雨については、12時間雨量を計画雨量に引き伸ばした場合、短時間雨量が非常に大きい確率規模となったため、これを採用しないこととしたところです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の保水力について、配布資料p17にあるグラフで柳瀬地区を調査地点に選定した理由は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳瀬地点の図については、森林の保水力にかかる住民の方々との共同検証を行った際の時の資料をお示しさせて頂いているところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・球磨川本流では、豊かな農村、農地が展開している。土地利用形態(森林→川、森林→耕地→川、森林→住宅→川)毎に球磨川流域全体で延長がどれくらいあるかを示して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川延長のデータは整理されていますが、土地利用形態毎の球磨川水系の河川延長データは整理されていません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水調節機能、洪水防止機能というものは地域全体で考えていく問題と思う。水田まで含めた地域全体としての洪水防止機能の検討が無かったのか。農水省の資料によると、水田は保水、貯水、洪水防止機能があるということである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本高水のピーク流量の検討にあたっては、実際に球磨川流域で観測した洪水時の降雨量と河川流量のデータを用いて、球磨川流域における降雨量と河川流量の関係を求めています。従って、結果として、この関係式は球磨川流域における森林や水田等の実際の洪水緩和機能も反映されたものとなっています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉市内では河床掘削はできないとする、河川工学上の一番決定的な理由は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床掘削により砂礫河床が喪失し人吉層が広範囲に露出すれば、河道が維持できず、橋梁や護岸など河川内の施設全体に支障が生じ、安全が確保できなくなるおそれがあります。</li> </ul> <p>また、アユなどの魚類の生息場や舟下りの名所となっている瀬が失われるおそれがあります。</p> <p>仮に、このような大規模な河川工事を実施しようとする場合、アユ等の生息環境への配慮や舟下り運行への配慮等から工事が施工できる期間が制限され、工事期間は非常に長期に及ぶこととなり、生活環境や観光等への影響も考えられます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水調節施設による流量調節は、いつ、どのようにしてなされるのか具体的に提示して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体の洪水調節施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土堤の余裕高1.5mが、(人吉市内のように)土堤ではないところでも必要であることについて説明して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防には、構造・材質の違いに拘わらず、洪水時のうねり、流木、水防等の観点から余裕高を設けることとしています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨量の引き伸ばしについて説明して欲しい。(小委員会等の資料で提示されている)基本高水流量の根拠となる6,997m<sup>3</sup>/sの引き伸ばしの図について、既に2,000m<sup>3</sup>/s流れている状況から引き伸ばしをすれば過大になるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉地点の基本高水のピーク流量の算出にあたっては、過去の主要洪水の降雨について、強く降っている12時間の雨量を80年に1回の確率規模となるよう引き伸ばす一般的な方法で検討しています。</li> </ul> <p>昭和40年の降雨など、12時間雨量を計画雨量に引き伸ばした場合、短時間雨量が非常に大きい確率規模となる場合には、これを採用しないこととしています。</p> <p>また、平成18年に川内川で降った雨が球磨川で降ったと仮定した場合の検討や歴史的洪水の検証など様々な検討を行ったうえで、球磨川の基本高水のピーク流量の妥当性を確認していま</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>計画降雨継続時間を12時間と短く設定するからおかしな数字になっているのではないか。配布資料p23の図を見ると、12時間雨量と36時間雨量の相関係数の差はほとんどない。また、短時間降雨で棄却するのはおかしい。基本高水流量7,000m<sup>3</sup>/sは過大だと思う。</li> </ul>	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画降雨継続時間は、相関関係のみで決定しているものではなく、山地に降った雨が基準地点に到達するまでの時間（洪水到達時間）等を考慮して決定しています。</li> <li>また、12時間雨量を計画雨量まで引き伸ばした結果、短時間雨量がその他の降雨の引き伸ばし結果と比較して非常に大きい確率規模となる場合には、これを採用しないこととしたものです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの報告会の中で「確かめ算」という説明をしているが、これは何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「確かめ算」という表現は、地域の皆さんにご報告するにあたり、できるだけ分かりやすくするために平易な言葉を使っているものです。「検証」と解釈していただければ結構かと思えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧に説明してもらったが、なぜ治水対策が必要かといった論点について前提となる説明がもう少しあればよかった。報告会で幅広く県民の意見を聞く場を設けてもらっているが、何より流域の住民、特に通常被害を受ける可能性のある方々に対して説明なり意見をきくことに重点を置いてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針の内容等について、地域の方々の理解が深まるよう、今後とも説明に努めていきたいと考えています。</li> </ul>
<p><b>【球磨川の治水対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小委員会で知事は、「国交省は、萩原地区の深掘れ対策に15年かかるとしているが、ダム完成時期より遅れることになるので、矛盾を感じる」と発言された。この矛盾について説明して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>八代市の萩原地区の堤防は、洪水時に水当たりが強い箇所であり、現在、堤防の脚元が深掘れしていることから、大きな石や砂利を埋める工事を実施しています。</li> <li>さらに、法令で必要としている堤防の厚みが足りない箇所について堤防の断面を厚くする工事を行う必要があると考えています。</li> <li>球磨川における河川内での工事は、出水期やアユの遡上・下降時期を考慮し、1年間で約4ヶ月だけしか実施できません。</li> <li>このような制約がありますが、河川管理者としては、1日でも早く工事を完成できるように引き続き努力していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>国交省が危険性を指摘している萩原堤防7.6km地点について、基本高水流量9,900m<sup>3</sup>/s時の水位や、計画高水流量7,800m<sup>3</sup>/s時の水位の表示があるとみんな安心できると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘のとおり、球磨川における水位情報をもう少し分かりやすくお伝えできるよう工夫していきたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(以前配布されていた冊子である)「暴れ川球磨川」の写真は萩原堤防が壊れて球磨川が溢れた写真なのか。今もこんな洪水の危険があるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘の写真は、地元の方にお聞きしたところでは水無川の洪水写真であると聞いています。過去の洪水の状況等については、国交省で把握できていないところもあるかと思えますので、今後とも地域の方々にお聞きしながらしっかりと確認していきたいと考えています。</li> <li>また、萩原堤防の現状については、今後も様々な機会を捉えて、わかりやすく説明していきたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市房ダムの管理をきちんとやっていたら洪水も起こらなかったのではないかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県のデータを見る限り、市房ダムでは適正な操作が行われていたと認識しています。</li> </ul> <p><b>【熊本県回答】</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 40 年 7 月の洪水では、雨の降り始めから 7 月 2 日 23 時までに入ってくる水をダムに貯めておりません。その後、ダムに入ってくる水の量が増えたため、少しずつダムに水を貯め、球磨川を流れる水の量を減らしました。そして、ダムに入ってくる水の量が最も多くなった 7 月 3 日 3 時頃 862m<sup>3</sup>/s の最大流量がありましたが、ダム操作により 341m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行い、521m<sup>3</sup>/s を放流しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>球磨川と川辺川が合流する一帯は遊水地だと考えればよいのではないか。球磨川にゲートをつけて、雨が降ったら一斉に開けて（田んぼの方に）逆流させ、田んぼで水を受け入れればどうにかなる。米などの補償をすればよい。球磨盆地全体を緩やかなダムと考えて遊水地にすれば安くつく。そういった検討をして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊水地などの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなりますので、いただいたご意見は、その際の検討の参考にしたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>冬柴大臣は川辺川ダムを造りたいと言っているが、ダムを造ったとしても過去の洪水の被害者を救うことはできない。ダムで救えないところで死者は出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。</li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水田の貯水・保水機能を活かすために人吉・球磨地区を経済特区として「バイオエタノールの原料米の栽培」を提案する。県でもこういったことの可能性を検討して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いただいたご意見は、熊本県にお伝えしました。</li> </ul>

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。